

専門研究B

軽度・中等度難聴児に対する指導と支援の 在り方に関する研究

(平成22年度～23年度)

研究成果報告書

平成24年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

近年、新生児聴覚スクリーニング等の聴覚障害の早期発見システムの進展により、早期から聴覚障害の有無だけでなく、障害の程度も判定できるようになった。また、重度聴覚障害に対する人工内耳装用事例が増加しており、聴覚特別支援学校においては、1歳未満の人工内耳装用例も報告されている。

聴覚障害の早期発見により、できるだけ早くから補聴器を装用し、療育・教育環境を整える等の手だてを講じることにより、聴覚障害に起因する言語発達の遅れやコミュニケーション上の困難性を軽減することが期待される。

軽度・中等度難聴にあっては、きこえが十分ではないが、音や音声に反応し、音声コミュニケーションが可能であることが多い。しかし、確実な聴覚情報が入らない状況を放置することにより、言語発達やコミュニケーションに支障が生じることが危惧される。

このような状況を背景として、聴覚障害教育においては、軽度・中等度難聴児への教育的な対応がより重要な課題と位置づけられるようになってきている。

そこで、本研究では、軽度・中等度難聴児の指導や支援の在り方とともに保護者等への支援について検討するために、先行研究の収集から、聴覚特別支援学校、難聴特別支援学級及び通級指導教室並びに聴覚障害者情報提供施設等の関係諸機関における軽度・中等度難聴児（者）の支援状況に関する実地調査や実態調査を実施し、それぞれの機関における指導事例等の教育的対応に関する資料収集を行い、「軽度・中等度難聴児に対する指導と支援の在り方に関する研究」に着手することとした。

2012年3月

研究代表者 教育研修・事業部総括研究員 原田 公人

目次

はじめに

第1章 軽度・中等度難聴児に対する教育的対応の今日的課題	1
第1節 聴覚障害の程度と区分	3
第2節 軽度・中等度難聴の補聴の必要性和専門的教育機関における指導	4
第3節 軽度・中等度難聴児への教育的支援	5
第4節 各発達段階における軽度・中等度難聴児への指導上の課題	6
第2章 研究の目的、研究の方法、研究計画	9
第3章 軽度・中等度難聴児の教育的支援に関する調査	13
第1節 聴覚特別支援学校における軽度・中等度難聴児の教育的支援に関する実態調査	15
第2節 聴覚障害者情報提供施設ライブラリー及び地方ライブラリーの教育的利用に関する実態調査	32
第3節 全国難聴言語障害学級及び通級による指導教室における実態調査	41
第4節 まとめ	47
第4章 軽度・中等度難聴児・者への指導と支援の実際	49
第1節 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校における軽度・中等度難聴児への指導と支援	51
第2節 小学校難聴学級・通級指導教室の実践 一連携をとおして一	61
第3節 川崎市北部地域療育センターにおける軽度・中等度難聴児への指導と支援	71
第4節 神奈川県聴覚障害者福祉センターにおける軽度・中等度難聴児（者）への支援	78
第5節 まとめ	89
第5章 総合考察	91
研究体制	96

資料 1	「軽度・中等度難聴児に対する指導と支援のあり方に関する研究」にかか るアンケート調査（聾学校）	99
2	平成 23 年度 全国難聴・言語学級及び通級指導教室実態調査	126
3	聴覚障害者情報提供施設・聴覚障害者センター 軽度・中等度難聴に 関する実態調査	134
研究分担者・協力者一覧		140
おわりに		141
執筆者一覧		142